

中学校入学における情報の取得

Received information in the transition to junior high school

小 泉 令 三¹

Reizo Koizumi

(第四部心理学科)

(1993年9月10日受理)

The information which 157 seventh-grade students received in the transition to junior high school was examined. The information clusters were mainly based on information sources, such as brothers and/or sisters (or junior high school students in the neighborhood), friends who have elder brothers and/or sisters, parents, and primary school teachers. Subjects who had elder brothers and/or sisters got more both positive and negative information from brothers and/or sisters (or junior high school students in the neighborhood) than those without any elder siblings. These findings suggest that elder siblings may be "anchor persons" in students' adaptation to junior high school. Seventh graders who had received more information wanted to have more orientation programs in order to get information about junior high school than those with less information.

小学校を卒業して中学校に入学する際、生徒は大きな環境の変化を経験する。すなわち、学校規模の拡大、学級担任制から教科担任制への移行、部活動への参加、新しい教科（英語）の学習開始などをあげることができる。こうした環境の変化（環境移行）に際して生徒がいろいろ心配や不安、そして期待を抱いていることが報告されている（名城・石川・嘉数，1986）。これらの情緒的反応は、生徒の中学校環境への適応に少なからぬ影響をもつと予想され、また環境移行事態で重要な意味をもつ基本的態度（basic attitudes: Wapner, Kaplan, Cohen, 1973）の形成に関与すると考えられる。

このように、心配・不安・期待の情緒的反応は重要であるが、そうした反応を引き起こす原因の1つとも言える中学校環境についての情報の取得については、これまで全く検討されていない。新しく入学する中学校について、どのような内容のことを、どの程度、誰を通して聞いているのだろうか。こうした情報取得は、先ほど述べたように、

中学校入学にあたっての生徒の心配や不安、あるいは期待の形成をもたらすとともに、一方において、そうした情緒的な反応の結果としても生起するものである。したがって、情報の取得についての検討は生徒の適応過程を理解する上で重要な意味をもつと考えられる。

また、単に情報取得の現状のみならず、今後どのような形で情報を提供したらよいのかという点も大きな課題である。これは、生徒の適応促進を援助するための教育的介入の視点からの検討といえる。現状としては、中学校入学直後に、何らかの形で中学校生活への適応を目的とした説明会などを実施しているケースが多いようである。これ以外に、生徒は、新たにどのような形態でのオリエンテーションを希望しているのだろうか。

なお、一般的に環境移行に際して、その新しい環境内で現に生活する者、あるいはその経験のある者が身近に存在すれば、それが有力な情報源となる可能性は高い。中学校入学についてみれば、両親や小学校の教師は中学校卒業者であり、すべ

¹本研究の実施にあたっては、多良幸男氏の多大なる御協力を得ました。心より感謝致します。

ての生徒にとって、共通の情報源といえる。これ以外に、特に現在中学校に通っている、あるいは過去に通ったことのある兄や姉がいれば、彼らが有力な情報源となりうるであろう。従来の研究では、中学校環境への適応に影響する要因として、生徒の性、小学校環境での適応状態、過去の環境移行経験の有無などが検討されている（参照：小泉，1992）。けれども、最も身近な情報源である兄姉の有無についてはなぜか取り上げられてこなかった。そこで、本研究では、兄姉の有無に注目し、それによって情報の取得に違いがあるかどうかを検討することとした。

以上をまとめると、中学校入学にあたって、(1)生徒が取得する中学校環境についての情報の内容や量、その情報源、および(2)生徒が新たに希望する情報取得の機会（オリエンテーション行事）、の2点について、兄姉の有無との関連で検討することが本研究の目的であった。

方 法

被験者 福岡県内の公立中学校1校の1年生5クラス、157名が被験者として参加した。男子の中で兄姉のいる者は42名、いない者は25名、女子の中で兄姉のある者は46名、兄姉のいない者は44名であった。この中学校は大都市周辺に位置するが、校区には農村地域も含まれており、比較的落ちついた環境にある。

調査内容 (1)情報内容・情報源調査 入学前に中学校に関して得た情報について、情報源として、a. 親、b. 兄姉（あるいは近所の中学生）、c. 小学校の先生、d. 兄姉のいる友人、の4つ、情報の内容として、a. 勉強・テスト、b. 部活動、c. 規則・きまり、d. 上級生との関係、e. 中学校の先生、の5つ、情報の種類として、a. 楽しい・おもしろい・当然であたりまえのこと（積極的情報）、b. たいへんそう・いやだ・きびしそうなこと（消極的情報）、の2つを設定し、これらの組み合わせによって、合計40項目（ $4 \times 5 \times 2$ ）を設定した。各項目について、取得した情報の量を4段階評定（たくさん聞いた＝4点、少し聞いた＝3点、あまり聞かなかった＝2点、全然聞かなかった＝1点）で尋ねた。

具体的には、親からの勉強・テストに関する積極的情報の場合には、“入学前に、親から、中学校の勉強のようす・テストについて、楽しそうなこと、おもしろいこと”をどれくらい聞いたかを尋ねた。なお、情報の内容のc. 規則・きま

りについては、積極的情報は“当然であたりまえだと思うようなこと”，消極的情報は“きびしそうで、いやだなと思うこと”とし、他の内容（a, b, d, e）については、積極的情報は“楽しそうなこと、おもしろいこと”，消極的情報は“たいへんいふようなこと、いやだなと思うこと”とした。

(2) 入学時オリエンテーション行事希望 表3の5つの行事について、実施希望の程度を尋ねた。生徒会によるオリエンテーション以外は、すべて小学生段階での実施を想定して設定した。質問内容は、具体的には次のようなものであった。“中学校生活にうまくなるために、こんなことがあったらいいだろうと思うことがあります。次のことについて、下の4～1で答えて下さい。”回答は、4段階（とても思う＝4点、少し思う＝3点、あまりそう思わない＝2点、まったくそう思わない＝1点）で求めた。

調査時期と調査手続 中学1年生の12月中旬～1月上旬に、クラス単位で担任教師が説明しながら、回答を求めた。

結 果

情報内容・情報源の因子分析 中学校入学に際して生徒の取得する情報が、どのような構造で生徒自身に認知されているのかを検討するために、情報源・情報内容調査の40項目に対する回答を、因子分析した。これによって、生徒の取得する情報が、例えば親、兄姉、小学校の先生といった情報源によって大きく区分されているのか、あるいは情報源の相違よりもむしろ勉強・テスト、部活動のような情報の内容的な相違の方がより上位の区分なのか、さらには積極的情報と消極的情報が1つの次元の両極端をなすものとしてとらえられているのか、あるいは別個のものとしてとらえられているのかという点を明らかにしようとするものである。

主因子法を実施したところ、第5因子と第6因子の間に、比較的大きな固有値の開きが認められたので、5因子解を採用し、プロマックス回転を行った。なお、因子数の決定にあたっては、いろいろ因子数を変えて他の因子解も検討したが、因子の解釈の点でも、5因子解が最も適切であった。

表1は、5因子解の結果を表したものである。第1因子は小学校の先生からの情報、第2因子は兄姉のいる友人からの情報、第4因子は親からの情報といったように、主に情報源の区分に従って因子が形成されており、情報の内容や種類による

表1 情報内容・情報源調査の因子分析結果

項目内容 ^a	因子負荷量					平均	SD	共通性
	F1	F2	F3	F4	F5			
親	勉+ (1) ^b	0.01	0.06	-0.09	0.26	0.36	1.78	0.84
	- (2)	0.07	0.03	0.12	0.28	0.09	2.76	1.01
	部+ (3)*	-0.05	-0.00	-0.04	<u>0.52</u>	0.21	2.10	1.03
	- (4)*	-0.00	0.06	-0.12	<u>0.51</u>	0.02	2.08	0.93
	規+ (5)	0.32	-0.18	0.10	0.21	0.31	1.97	1.01
	- (6)	0.28	-0.01	0.13	0.39	0.04	2.12	1.04
	輩+ (7)*	-0.02	0.13	-0.11	0.37	<u>0.41</u>	1.54	0.73
	- (8)*	0.04	0.20	0.08	<u>0.47</u>	<u>0.13</u>	1.90	1.00
	先+ (9)*	-0.09	-0.12	0.15	<u>0.48</u>	0.34	1.71	0.91
	- (10)*	0.07	-0.03	0.28	<u>0.61</u>	-0.17	1.96	1.02
兄姉	勉+ (11)*	-0.00	0.07	0.11	-0.01	<u>0.56</u>	1.71	1.01
	- (12)*	0.00	-0.03	<u>0.68</u>	-0.07	<u>0.20</u>	2.77	1.19
	部+ (13)*	-0.01	-0.09	0.37	0.06	<u>0.43</u>	2.29	1.04
	- (14)*	-0.03	-0.00	<u>0.49</u>	0.26	<u>0.20</u>	2.28	1.07
	規+ (15)*	<u>0.46</u>	-0.06	0.36	-0.15	0.36	1.73	0.95
	- (16)*	0.18	0.06	<u>0.66</u>	0.01	0.01	2.29	1.16
	輩+ (17)*	-0.09	0.09	0.14	0.16	<u>0.57</u>	1.66	0.83
	- (18)*	-0.13	0.24	<u>0.59</u>	-0.03	<u>0.18</u>	2.33	1.12
	先+ (19)*	-0.06	-0.04	<u>0.40</u>	-0.02	<u>0.58</u>	1.98	0.99
	- (20)*	0.05	0.07	<u>0.55</u>	0.07	<u>0.07</u>	2.31	1.10
先生	勉+ (21)*	<u>0.63</u>	-0.08	-0.14	0.05	0.22	1.57	0.79
	- (22)	<u>0.36</u>	0.08	0.28	0.01	-0.03	2.33	1.03
	部+ (23)*	<u>0.77</u>	-0.07	-0.00	-0.05	0.02	1.59	0.89
	- (24)*	<u>0.77</u>	0.06	-0.00	0.05	-0.15	1.58	0.89
	規+ (25)*	<u>0.73</u>	0.05	0.10	-0.16	-0.04	1.75	0.96
	- (26)*	<u>0.60</u>	0.04	0.11	-0.03	-0.19	1.70	0.89
	輩+ (27)*	<u>0.61</u>	0.20	-0.13	-0.00	0.16	1.40	0.71
	- (28)*	<u>0.52</u>	0.09	-0.10	0.25	-0.04	1.56	0.83
	先+ (29)*	<u>0.61</u>	-0.04	0.05	0.08	0.06	1.51	0.80
	- (30)*	<u>0.50</u>	0.01	0.06	0.35	-0.19	1.64	0.91
友人	勉+ (31)*	0.09	<u>0.56</u>	-0.22	0.15	0.22	1.43	0.70
	- (32)*	-0.08	<u>0.64</u>	0.18	0.07	-0.01	2.15	1.17
	部+ (33)*	0.00	<u>0.66</u>	-0.08	0.00	0.08	1.73	0.96
	- (34)*	-0.11	<u>0.65</u>	0.10	0.20	-0.14	1.79	0.99
	規+ (35)*	0.22	<u>0.59</u>	-0.04	-0.03	0.19	1.54	0.81
	- (36)*	-0.02	<u>0.67</u>	0.26	0.01	-0.11	1.90	1.05
	輩+ (37)*	0.18	<u>0.65</u>	-0.10	-0.09	0.20	1.50	0.79
	- (38)*	-0.07	<u>0.64</u>	0.33	-0.13	-0.07	2.01	1.13
	先+ (39)*	0.16	<u>0.44</u>	0.05	-0.04	0.24	1.57	0.81
	- (40)*	0.04	<u>0.54</u>	0.33	0.02	-0.11	1.90	1.09

(注) 下線のある因子負荷量は、その絶対値が0.41以上のもの。

* 各因子への採用項目

^a 兄姉 (= 兄姉あるいは近所の中学生)、先生 (= 小学校の先生)、友人 (= 兄姉のいる友人) は情報源を表す。勉 (= 勉強・テスト)、部 (= 部活動)、規 (= 規則・きまり)、輩 (= 上級生との関係)、先 (= 中学校の先生) は情報の内容を表す。+ (= 楽しい・おもしろい・当然で当り前のこと：積極的情報)、- (= 大変そう・いやだ・きびしそうなこと：消極的情報) は、情報の種類を表す。

^b () 内は、項目番号。項目1は具体的には、「「入学前に、親から、中学校の勉強のようす・テストについて、楽しそうなこと、おもしろそうなこと」を聞いたかどうか」を意味する。

区分には従っていなかった。ただし、第3因子と第5因子は、どちらも兄弟あるいは近所の中学生からの情報だが、第3因子が消極的情報、第5因子が積極的情報というように、情報の種類によって別の因子となっていた。各因子を、教師因子(F1)、友人因子(F2)、兄弟(負)因子(F3)、親因子(F4)、兄弟(正)因子(F5)と命名した。

兄弟の有無、性別による情報源・情報内容の違い 次に、兄弟の有無や生徒の性別によって、情報取得に違いがあるかどうかを検討した。単独の因子に負荷量の絶対値が0.41以上の項目のみを採用し、因子ごとに1項目あたりの平均得点を算出して、情報取得得点とした。各因子に採用した項目数は、第1因子から順に、10項目、10項目、5項目、5項目、5項目だった。情報取得得点の平均値と標準偏差を兄弟の有無と性別ごとに表したものが、表2である。これについて、因子(5)×兄弟の有無(2)×性(2)の分散分析を行った。因子要因は被験者内要因、兄弟の有無と性は被験者間要因である。その結果、因子の主効果 ($F(4, 612) = 46.86, p < .001$)、因子×兄弟の有無の交互作用 ($F(4, 612) = 9.58, p < .001$)、因子×性の交互作

用 ($F(4, 612) = 3.26, p < .05$) が有意であった。

下位検定 (多重比較は、Newman-Keuls 法を使用: $p < .05$) の結果、因子の主効果については、平均値の順に並べると、兄弟(負)因子 (F3: $M = 2.34$) > 親因子 (F4: $M = 1.96$) > 兄弟(正)因子 (F5: $M = 1.81$) = 友人因子 (F2: $M = 1.73$) > 教師因子 (F1: $M = 1.59$) となり、兄弟(正)因子 (F5) と友人因子 (F2) の間で有意な差が認められないだけで、他の因子間では、すべて差が見られた。兄弟 (あるいは近所の中学生) や親のように、家族あるいは地域集団からの情報の方が、小学校教師からの情報よりも多く、また兄弟 (あるいは近所の中学生) からの情報でも、“たいへんそう・いやだ・きびしそうなこと” といった消極的情報の方が、“楽しい・おもしろい・当然で当たり前のこと” といった積極的情報より多いことが明らかとなった。

次に、因子×兄弟の有無の交互作用を図1に示した。兄弟あり群は因子間での情報取得得点の変動が有意であり、また兄弟(負)因子 (F3) と兄弟(正)因子 (F5) で、兄弟あり群の方が兄弟なし群よりも高得点だった。兄弟のいる者はいない者に

表2 兄弟の有無、性別ごとの情報取得得点の平均値と標準偏差

	教師 (F1)	友人 (F2)	兄弟 (正) (F3)	親 (F4)	兄弟 (負) (F5)
兄弟あり					
男子 (N=42)	1.56 (0.61)	1.71 (0.69)	2.51 (0.81)	2.03 (0.75)	1.85 (0.62)
女子 (N=46)	1.57 (0.54)	1.65 (0.63)	2.69 (0.66)	1.88 (0.67)	2.02 (0.60)
兄弟なし					
男子 (N=25)	1.46 (0.58)	1.55 (0.68)	1.91 (0.84)	2.02 (0.59)	1.58 (0.57)
女子 (N=44)	1.76 (0.66)	2.01 (0.64)	2.25 (0.85)	1.91 (0.60)	1.77 (0.57)

(注) () 内が標準偏差

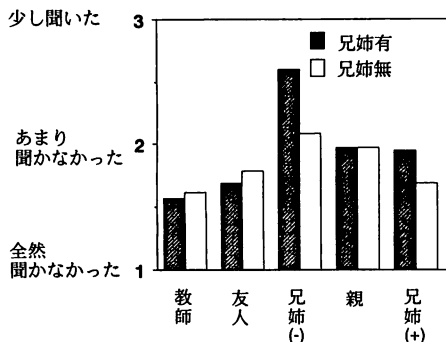


図1 兄弟有無群別の情報取得得点

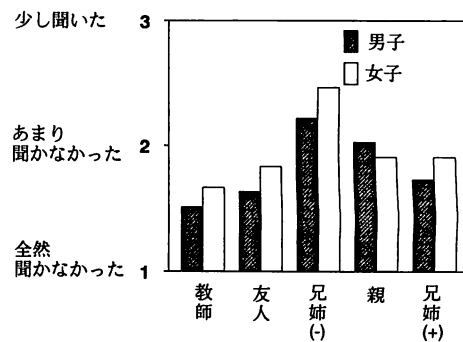


図2 男女別の情報取得得点

比べ、兄弟あるいは近所の中学生から中学校について積極的・消極的の両面の情報をより多く得ていることが確認できた。

図2は、因子×性の交互作用を表したものである。男女とも因子間で比較的良好なパターンを示しているが、兄弟(負)因子(F3)で女子が男子よりも高得点であり、女子は男子よりも、兄弟あるいは近所の中学生から中学校についての消極的な情報をより多く取得していた。他の因子では、有意な男女差は認められなかった。

入学時オリエンテーション行事希望 兄弟の有無群ごとに、各行事について、その程度に関わらず希望する者、すなわち4段階の回答の内、“とてもそう思う”と“少しそう思う”と答えた者の割合をまとめたものが表3である。いずれの行事についても、兄弟の有無によって希望の割合が有意に異なるということとはなかった。

次に、実際に取得した情報量の多少と、入学時オリエンテーション行事希望との関連を検討した。情報源・情報内容の5因子の情報取得得点を各被験者ごとに合計したところ、その平均値は9.54、標準偏差2.42、中央値9.49であった。中央値に従って、情報取得量の高群(N=79)と低群(N=78)を設定した。高低群ごとの各行事の希望者の割合を、表4にまとめた。行事の希望者とは、先と同様に、“とてもそう思う”と“少しそう思う”と答えた者をまとめたものである。中学校教師による説明会、中学校見学、1日体験入学の項目で情報取得高群の方が希望者の割合が有意に高く、また生徒会によるオリエンテーションについてもその傾向が認められた($\chi^2=3.39$, $df=1$, $p<.07$)。すなわち、入学前により多くの情報を得ている者ほど、さらに情報を求めていることがわかった。

表3 兄弟の有無別の入学時オリエンテーション行事の希望(実施を希望する割合：%)

入学時オリエンテーション行事	兄弟有(N=88)	兄弟無(N=69)	χ^2 ($df=1$)
中学教師による説明会	34.1	44.9	1.91
中学校見学	31.8	37.7	0.59
1日体験入学	22.7	23.2	0.01
中学生による説明会	15.9	18.8	0.23
生徒会によるオリエンテーション	26.1	37.7	2.40

** $p<.01$ * $p<.05$ + $p<.10$

表4 情報取得量の高・低群別の入学時オリエンテーション行事の希望(実施を希望する割合：%)

入学時オリエンテーション行事	情報取得量 高群(N=79)	情報取得量 低群(N=78)	χ^2 ($df=1$)
中学教師による説明会	48.1	29.5	5.72*
中学校見学	44.3	24.4	6.91**
1日体験入学	30.4	15.4	4.99*
中学生による説明会	15.2	19.2	0.45
生徒会によるオリエンテーション	38.0	24.4	3.39+

** $p<.01$ * $p<.05$ + $p<.10$

考 察

情報の認知構造 まず、中学校についての情報がどのような構造で、どの程度取得されているのかという点について検討する。因子分析の結果は、生徒の取得する情報が、情報の内容(勉強・テスト、部活動など)や情報の種類(積極的情報、消極的情報)よりも、親、兄弟、小学校の先生といった情報源によって大きく区分されていることを示した。この内、兄弟あるいは近所の中学生からの情報だけは、さらに積極的情報と消極的情報で別の因子を構成していた。これは、生徒が兄弟たちからの情報を積極的なものと消極的なものに分けて認知し、他の情報源からの情報とは異なるとらえ方をしていることを示唆するものである。本研究で、兄弟の有無に注目したことの重要性を裏づける結果といえる。ただし、今回は情報内容・情報源調査の項目が情報源ごとに配列されていたので、それが何らかの影響を与えていた可能性もある。結果全体の一般化には、注意を要する点であろう。

情報源ごとの情報量の違いは、情報取得得点の分散分析における因子の主効果から判断できる。その結果は、兄弟、親のような家族集団からの情報が多く、次に友人、そして教師というような順であった。日常的な接触の頻度と質の違いが、こうした情報量の違いに反映しているのであろう。全体的に情報量のレベルは低く、“あまり聞かなかった”(2.00)を超えているのは、兄弟からの消極的情報(F3)だけであった。こうした情報源以外の経路、例えばテレビなどのマスメディアや、あるいは中学生の登下校時の様子や体育会などの行事を見に行っただけというような直接的な経験

も検討すべきことなのかもしれない。

兄姉の有無や性との関係 次に、兄姉の有無による情報取得の違いについては、情報源としての兄姉に関係する因子、すなわち兄姉(負)因子(F3)と兄姉(正)因子(F5)で、兄姉のある群の方が兄姉のいない群よりも、多くの情報を得ていた。これらの因子に区分された質問項目では具体的には、“兄や姉、あるいは近所の中学生から”としてあるが、兄や姉がいれば当然のことながら、近所の中学生よりも接する機会は多く、それだけ情報の取得は容易であろうと予想される。なお、兄姉からの情報の中で、消極的な情報の方が積極的な情報よりも多く、生徒はそれだけ中学校環境を厳しいものととらえている可能性が高い。

こうした結果は、当初の予想どおり兄姉が有力な情報源の1つとなっていることを示している。一般に、ある環境についての認知が進み、さらにそれについての評価や感情が定まるような過程は、環境の構造化過程と考えることができる。その際、そうした環境の構造化の基点となるものはアンカーポイントと呼ばれ、重要な意味をもつ(Wapner, 1987)。例えば、遊園地に遊びに行き、まず入場ゲートをくぐる。その後、園内に掲示された地図を見る場合にも、入場ゲートからの経路を念頭において、位置関係や方向を考えることが多い。この場合、入場ゲートがアンカーポイントとなっている。こうした関係は対人関係でも同様であり、基点となる人をアンカーパーソンと呼ぶ。これから中学校に入学しようとする生徒にとって、兄姉を通して初期の情報を取得し、それがその後の中学校環境への適応に重要な役割を担っているという意味で、兄姉がアンカーパーソンとなっている可能性がある。情報の取得は、本研究で取り上げたような兄や姉からの口頭での直接的なものに限らず、家族としての日常的な接触の中で、兄姉の生活そのものの観察からもなされていると考えられる。

なお、兄姉の有無の主効果は有意でなく、全体の情報量が兄姉のいる者といない者の間で異なるということとはなかった。けれども、情報量に差が認められないからといって、不安や期待の程度も同じであろうと考えることは妥当ではなく、この

点は今後検討が必要である。

情報取得の性差について、兄姉あるいは近所の中学生からの消極的な情報(F3)についてのみ、女子は男子よりも多く取得していた。兄姉あるいは近所の中学生からの積極的な情報(F5)については、有意な差は認められなかった。中学校入学にあたって、女子の方が男子よりも好ましくない影響を受けやすいとの研究報告が多い(小泉, 1992)が、本研究の結果は、こうした性差と関連があるのかもしれない。

入学時オリエンテーション行事の希望 兄姉の有無によって、オリエンテーション行事の希望に違いは見られなかった。兄姉がいる生徒は、彼らを通しての積極的・消極的両面の情報をより多く取得しているからといって、オリエンテーション行事を希望する割合が低いというわけではないことを意味する。

一方、入学前に取得した情報量との関係では、より多くの情報を取得している者ほど、中学教師による説明会や中学校見学、一日体験入学を希望する者の割合が高かった。情報取得の傾向を個人特性的にとらえ、個人差として理解できるのかもしれない。周囲の環境からの刺激をどのように処理するのかという点では、例えば周囲からの刺激の選択性を人格次元でとらえた刺激透過性(stimulus screening: メーラビアン, 1981)のような概念も提唱されている。新環境移行に際しての情報取得についても、今後、個人特性として検討すべきなのかもしれない。

なお、どの行事についても希望する生徒の割合はあまり高くない。けれども、それだからといって、現在実施されているような入学時の説明会などで十分であるというわけではない。逆に、不登校生徒の増加などを考慮すると、中学校入学にあたっての適応援助プログラムの開発・研究への着手が必要になってきていると言えよう。

まとめ 以上、本研究の結果を簡単にまとめると、(1)兄姉が、中学校についての情報取得にあたってのキーパーソンとなっていることが推測され、また、(2)入学前により多くの情報を得ている者ほど、さらに中学校環境についての情報を求めていることが明らかになった。

引用文献

- 小泉令三 1992 中学校進学時における生徒の適応過程 教育心理学研究, 40, 348-358.
名城嗣明・石川清治・嘉数朝子 1986 小学校から中学校への移行期における児童の不安の縦断的研究 (I) 琉球大学教育学部紀要 第二部, 29, 355-362.

- メーラビアン, A. 岩下豊彦・森川尚子訳 1981 ヒューマンスペース —臨床環境心理学による生活のデザイン— 川島書店 (Mehrabian, A. 1976 *Public places and private spaces*. New York: Basic Books.)
- Wapner, S. 1987 A holistic, developmental, systems-oriented environmental psychology: some beginnings. In D. Stokols & I. Altman (Eds.), *Handbook of environmental psychology*, Vol. 2. New York: J. Wiley & Sons.
- Wapner, S., Kaplan, B., & Cohen, S. B. 1973 An organismic-developmental perspective for understanding transactions of men and environments. *Environment and Behavior*, 5, 255-289.